

子どもたちの明日

Children, Our Future

2020年5月
129号

目次

- ・「村の幼稚園」のある地域でのコロナウイルス感染予防 1頁
- ・教員養成学校の勉強と生活 3頁
- ・これからも続けていきたい伝統藍染め 4頁

1

「村の幼稚園」のある地域でのコロナウイルス感染予防

カンボジア政府はコロナウイルスの感染が拡大しないよう、3月16日から全国の幼稚園から大学までを休校にする措置をとっています。「村の幼稚園」のある地域では、プノンペンやコンポントウ市から工場労働者が戻り、タイへ出稼ぎに行っていた労働者も村に戻ってきています。どの村でもトラックやオートバイにスピーカーをのせて、午前と午後1回地区評議会、ヘルスセンターの人たちが、コロナウイルスにかからないよう注意し外出しない、集まらない、

川に囲まれたクロブール村



母親と家で チョー村

外国から戻ってくる人がいれば、報告するようにと呼びかけています。村の人たちはコロナウイルスの情報をテレビやフェイスブックで毎日見ているので、ウイルスの感染を大変恐れています。それぞれの村では、村長が、村人の家を回って皆で集まって飲食をしていないか、外から村に戻ってきた人がいないかどうかなど調べて回っています。

「村の幼稚園」の先生たちからも村の様子が報告されてきています。

プロスナップ村の先生の家の近くには、タイに出稼ぎに行き戻ってこない夫婦がおり、ミアチ・ポー先生に、子どもたちが外に出ないようみてほしいという電話がありました。兄弟二人で住んでいて、食事などの面倒は近くに住んでいる叔母さんがみています。この村は自宅で仕事をし、トムロコシやキャッサバを作っている人が多く、労働者として出稼ぎに行っている人は少ないため、子どもだけで過ごしている家は1軒だけです。

バックプノム村では、小学校の近くに芝居小屋を建てて、カンボジアの伝統的なお芝居の興行が3日間ある予定でしたが、取りやめになり芝居小屋はとりこわされました。チェム・サルン先生は、なるべく自給自足できるようにときゅうりを栽培したり、家の裏の川で魚を採ったりしています。また新たに庭に池を掘り、魚を養殖して家で食べられるようにしました。

プレイチュロウ村のチェム・キムノン先生によれば、子どもたちは家の近くで遊んでいるそうです。3月・4月の暑くなる時期に、子どもは熱を出したり風邪を引きますが、すぐに診療所に行ってもらい、皆ウイルスでないことを確認して安堵しています。キムノン先生は、ヘルスセンターが「貧しい家庭」に米やインスタントラーメンを配るのを手伝っています。

クロブール村は川に囲まれている村なので、シアン・チャンノム先生はポー



とってきたばかりの蓮の茎を洗う。プレクリアン村

トで移動しながら、毎日子どもたちの家を回って様子を見ています。隣近所の子どもたちが集まって高床式の家の下や大きな木の木陰で遊んだり、幼稚園で覚えた歌を歌ったり詩を暗唱したりしています。親にも子どもたちをよくみて、教えるように話しかけています。この村では親を対象に保健衛生指導プログラムを実施していた団体があり、絵本が配布されました。午後の暑くない時間に親が軒下や家の外で絵本の読み聞かせや幼稚園で習ったゲームをしています。男の人が酒を飲まず、妻の手伝いをして良い旦那さんになっているそうです。先生はヘルスセンターのボランティア委員になっていて、村の男女各1名、治安担当の人と一緒に各家に保健衛生のリーフレットや絵本、衛生についての小冊子、解熱剤10錠などを配布して、習ったことを教えています。

2月に幼稚園の園舎が寄贈されたクランブ村では、ほとんどの保護者は、近くの縫製工場に働きに行っていますが、4月からは皆仕事が休みにな

り、家にいるので、ウイルスの感染を心配しています。どの家でも消毒用ジェルを使っていましたが、高くなっているので、出入りする時のみ使っています。ウン・サヴィー先生は野菜を育てたり、鶏を飼いながら、家では保育教材を作っています。ウイルスの感染が怖いので、セレモニーや結婚式をキャンセルした村人が多いです。

トクホート村のトー・ソパー先生は、お母さんが村で開いている小間物屋さんを手伝っています。以前よりもよく売れ、特に食料は高くなっています。毎年この時期は結婚式のシーズンで多くの式に呼ばれますが、今年は取りやめにする人が多く、お祝い金をたくさん払わなくてもよくなり、とても嬉しいそうです。

トロピエンクローブ村にはマレーシアに行って帰ってきたチャム族の人が二人いますが、ウイルス検査では陰性でしたのでホッとしました。村の人たちは外に出るときはマスクをしています。市場には誰もいず、とても静かです。

コンボンバスロータボン村ではほと

んどの村人が米作り、田んぼの仕事をしています。建設労働者としてコンブナン州都で働いていた人が戻ってきています。昨年11月末に開園した「村の幼稚園」では地区が力を合わせて幼稚園の周りに塀を作っています。ケオ・スレイノッ先生や村長、大工さんなどが2、3人毎日手伝いに来ています。村にはタイから戻った夫婦がいますが、村長に言われ郡の小学校で2週間暮らしています。また最近村で急に亡くなった人がおり、診療所に報告し、コロナウイルスを疑ってテストしましたが、地区長、病院関係者、郡の診療所の人たち含め誰もコロナウイルスに感染していないことがわかり安堵したとのことでした。

日本での感染予防はどのようにしていますか。コロナウイルス感染を治療する病院が州にひとつしかない地域が多いカンボジアでは、人々の接触を厳しく制限して感染症と闘っています。

2 教員養成学校の勉強と生活

CYRは、質の高い保育の実践を目指し、専門的な保育の知識と技術を持つ保育者の育成を支援する目的で、バンキアン、プレイタウ保育所の卒園児の中から保育者になりたい人を選考して奨学金を供与してきました。2008年に2名、2014年に2名を採用し、それぞれ保育の勉強をした人たちは、地元のバンキアン保育所、プレイタウ保育所で保育者として働いたり、実習の後、プノンペン事務所で保育アシスタントとして働きました。

今年採用した2名の奨学生は、CYRが「村の幼稚園」を展開しているコンポンチュナン州の出身です。国立幼稚園教員養成学校で2年間、「村の幼稚園」でのモニタリングを通し実地の研修の2年間、それぞれ計4年間を支援していく計画です。

2019年度奨学生 ポン・スレイニ

私はポン・スレイニ、23歳です。2016年に高校の卒業試験に合格したとき、地区が地域幼稚園の先生になりたい人を募集していました。ずっと幼稚園の先生になるのが夢だったので、申し込んで、地区評議会の面接に出ました。申し込んだ二人の中、私が選ばれて、嬉しかった。2年間、カンラエンペー村の地域幼稚園の先生として働きました。地区評議会から手当を月に250,000リエル(62.5ドル)、年間10ヶ月頂きました。けれども、地域幼稚園の先生になってからの2年間、研修会に参加するチャンスがないし、子どもへの教え方がわからず、文字と数字だけを教えていました。もっと子どもに良い教育をしたいと思って、教員養成学校を受験しましたが州の代表枠では合格できませんでした。CYKの奨学金を受けることができて、とても嬉しいです。

教員養成学校は昨年12月から授業



が始まったと聞きましたが、1月の下旬になっても呼んでもらえなかったので、2回確認しました。教育省の大臣から了解の手紙が届いていませんし、学期はじめは掃除だけなので大丈夫とCYK代表に言われましたが、ドキドキしました。やっと1月28日に教員養成学校に呼ばれて、勉強を始めることができたので、ホッとしました。共同生活の経験もしたいと思って、教員養成学校の寮に入り、食事もさせて頂くことにしました。

学校の勉強は午前6時半の国歌斉唱に始まり11時まで、午後は2時から5時までで、月曜日から金曜日は終日、土曜日は午前中だけです。寮の生活は朝5時に起きて、部屋の掃除をしてから、勉強の支度をして、学校へ行きます。昼食は11時半、夕食は5時半です。夕方の6時から7時まで自習し、7時から8時まで運動し、8時から9時半まで寮の回りの掃除とゴミ捨てです。10時に電気を消して寝ます。土曜日の午後と日曜日は休みですが、外出したい場合は寮の管理者か校長先生に前もって許可を取ります。初めて家族から離れて、寮の生活なのでちょっと厳しいですが、学校のルール

が良いし、友だちもたくさん出来て、良かったです。今まで勉強したことがないこと、特に幼稚園での各科目の教え方、使う教材の作り方、教材の使い方などを勉強できました。また、寮の生活ではお互いに協力し合う、助け合うことが出来て、とてもよい経験になります。私は勉強を始めたのがちょっと遅いので、出ていなかった授業は友だちからコピーをもらわないといけませんし、作るのが遅れた教材も作らなければなりませんので、土日は休まずに頑張って自習しています。最初は子どもに良い質の教育を与えるために、教員養成学校で勉強するのが目的でしたが、プノンペンで勉強を始めてからは、保育技術だけでは足りないと感じました。4月から寮を出て、チャックアンレーの叔父・叔母のところに泊めてもらい、英語も勉強するつもりです。

これから先生としての能力を持つように、頑張って教育を受けて、やらないといけないことをやり、将来は、特に地方の子どもたちに基礎の質の良い教育を与えたいです。その子どもたちが良い仕事、良い将来を得て、地域、国を発展させて欲しいです。

CYRは2012年からコンボンチュナン州のアンコールバーン村で藍染めを習いたい人を対象に藍染めの技術研修を実施してきました。この村は、ポルポト時代にも藍のクロマー（カンボジアで使われている万能布）をグループで作っていた村ですが、藍染めは途絶えていました。2019年度は「藍染め技術の確立と地域の自立を支える持続的収入向上」事業の最後の年でしたので、総合評価の際に、グループリーダーのソポアンさんに話を伺いました。

アンコールバーン村藍染めグループリーダー サオ・ソポアン

「私が藍染め事業に興味を持ったのは、CYKが2014年にアンコールバーン村で藍染めをやってみたい人を対象に研修会を始めたからです。私は祖母や村の女性が藍染めやクロマー織りをしていたのを小さいとき見ていました。畑に撒いた種から藍の葉が育ち、その葉を発酵させ泥藍が作れたとき、とても嬉しかったです。

最初に泥藍の作り方や藍染めの方法を習ったときは、どうしてそのようにやるのかがよくわかりませんでした。染め液の作り方や藍が染まる仕組みなど全くわからず、専門家に教わったやり方で自分たちも一緒にやってきました。藍の染め

液を専門家と一緒に作って、染めた糸が空気に触れてさぁっと黄緑色から紺色に変わる様子がとても面白くワクワクしました。一番難しかったのは、藍の色が思うようにならなかったことです。ある一定の色になると飽和状態でそれ以上は染まらないと専門家から説明を聞いて納得しました。

今年の泥藍作りはトンさん、キムチェンさんと3人のチームをつくり、グループの他のメンバーが作っているところを見に行ったり、情報交換しながら作りました。私は、地域幼稚園を自宅で開いていますので、学校が休みになる7月下旬まで泥藍作りを始められず、グループの中では遅い方でしたが、30アールの畑に藍のタネをまき、770キロの泥藍を作りました。ここ3年間で作れる泥藍の量も増えました。もっと注文があれば、1,000キロは作れます。織物製品にはせず、泥藍のまま染料として売るのが一番手間がかかりませんし、収益も期待できます。染め液も自分で作れるようになりましたので、今年は250キロの泥藍を使って糸と絞り染めのスカーフを作りました。織った後で染める白いクロマーを150枚作り、藍染めのクロマーを200枚織ってもらいました。

私たちの村にはクルーズ船に乗って村を散策する外国人の観光客がたくさん来



ます。今年も私たちが染めて織った藍染めスカーフがたくさん売れました。英語の少し話せる若いラクサちゃんが店番をしてくれます。特に2月と3月は、移動式の商品展示カートを使って、時間のあるメンバーが観光客が通る場所に出向いて販売しましたので、売り上げが増えました。これからも学校やお寺などのイベントに出店して私たちの藍染めスカーフをたくさん売りたいです。

研修最後の年には、藍染めメンバーは2家族増えました。これからもメンバーの皆と一緒に泥藍作りを続けていきたいです。」

(この事業には、2012年度から2期6年間、公益財団法人国際協力財団の助成をいただきました。)

CYR 情報

第19回定時総会のお知らせ

日時：2020年5月30日(土) 適時

方法：電話会議による役員の出席により開催

【本総会は新型コロナウイルス感染防止のために、全ての会員が「委任状」または「表決権の行使」による表決をお願いします。】

会費お振込み・活動へのご支援は、下記までお願いいたします。

郵便振替 00110-8-36227

三菱UFJ銀行 六本木支店(普通) 1351747

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

子どもたちの明日 129号

発行日：2020年5月15日 発行者：牛場 輝夫

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

東京事務所 (CYR)

〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル2A

TEL: 03-6803-2015

FAX: 03-6803-2016

Email: info@cyr.or.jp

URL: http://www.cyr.or.jp/

プノンペン事務所 (CYK)

#170, St.63, Boeung Keng Kang I, Khan Chamkarmorn, Phnom Penh, Cambodia

TEL: (+855) 23 210849

FAX: (+855) 23 210849

Email: info@cyk.org.kh

URL: http://www.caringforyoungkhmer.org/

幼い難民を考える会 (CYR) は認定 NPO 法人です。
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。